
とあるマフィアと科学と魔術と神と

鳩雅 瑠維

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とあるマフィアと科学と魔術と神と

【Nコード】

N8527Z

【作者名】

鳩雅 瑠維

【あらすじ】

V A R I Aで暗殺業をしていた神影はある日とあるの世界の人間と出会う。

V A R I Aでなぜか連絡がとれるのはフランという自分の後輩だけ。

なんで他には連絡が届かないの？

突如少女の頭の中に流れ出した記憶。

それは少女に何を引き起こすのか

登場人物（前書き）

これは「とある」「と」REBORN「の混合小説です。
そついつのが苦手な方はお引き取りください。

登場人物

主人公

名前 瑛蓮 神影 (えいれん みかげ)

年齢 16

性別 女

性格 ボー……としている。

幻術の腕は高く、炎の純度も高い。他に雲が出せる。正義感の欠片がほとんどなかったりする。

容姿 黒い髪に赤い目。綺麗系に入る。少し筋肉のついたスリル

な体系

能力 レベル4 幻術現実 (適当でなんて読むかは分かりませ
ん；)

幻術で出したものを現実にだす事が出来る。少し

有幻覚に似ている。

その他 本人はまだ知らないけど神の上司に値する人だったりする。
V A R I A 雲の幹部。

V A R I A に戻れるよう試行錯誤をしている苦労モノ。

サブ?

名前 フラン

年齢 不明

性別 男

性格 毒舌蛙。キツイ一言が多い。

容姿 エメラルドグリーン of 髪と目。少し童顔の少し女顔
語尾がのびる。一人称「ミー」二人称「ユー(?)」

能力 レベル不明 神の力

あるいはレベル6イッチャッテル能力。ほぼ

出番のない能力

その他 実はフランが神の上司の弟だったりしちゃったり。

V A R I A霧の副幹部。マイモンがいる興味本位で世界をくつつけちゃっ

た犯人。

名前 暗影 楓

年齢 不明

性別 女

性格 気まぐれ。怒るとヤヴァイ。

強情。欲が強かったり強くなかったり。フランの義姉。

容姿 神影そっくり

能力 フランとほぼ一緒

その他 神の上司であり復讐者の最高責任者でありフランの姉。

興味本位で記憶消して偽名使って弟のいる世界にいつてみ

ちゃった人

登場人物（後書き）

混合なのか混合じゃないのかわからない連載始めました；
どうなるんなこの連載？！

プログラマー(前書き)

とうとうプログラマーです！

プロローグ

ザシュッ

いつも聞きなれた音が自分から出た感覚がする。

あるファミリーを潰しに来た私。いつも通り幻覚を使って手早く帰るつもりだった。

なのに……

「カハツ……ファミリーの奴ら……」

脇腹に激痛が走る。

普段のトレーニングでもそうそうに怪我しないものだからより一層痛く感じた。

グラッ

目の前の景色が180度回転した。真後ろは崖だったようだ。

（ああっ……打ちどころ悪かったら即死だね。いやだなあ、まだ私やりたいことたくさんあるのに……）

グシヤッ

私の意識はそこで途切れた。

「あっちゃー……だから言ったのにー。記憶を消すのはまずいと思
いますよーってさー」

後輩の声が聞こえた気がした。

プロローグ（後書き）

プロローグ終了！

「あなたはどこから来たのですか？」とミサカは警戒しながら問い掛けます」

あれから何分たったかは知らないけど、私は生きていたようで、激痛はあるけど起き上がる事が出来た。

「あれっ……？どこだよ」

だけでもそこは崖の下ではなかった 誰かが助けてくれたのか？

どこかの屋上らしい。イタリアでは見られないような建物であったけど、不思議と日本であるのが分かった。

「いや、イタリアから日本ってどんだけだよ……」

私は起き上がって身の周りと方位を確認した。

ちゃんとボックスもあるし、指輪もある。服もヴァリアーのだし剣も銃も、あるうことかベルのナイフまであった。

「方位は……うん、真っ暗すぎるだろ」

下が明るすぎるせいかな星も月も見えなかった。少し雲が張っているから月は見えないんだろうけど。

まずはここから降りよう。そう思った時、

「あなたはどこから来たのですか？」とミサカは警戒しながら問い掛けます」

真後ろから声がした。私は気配のない声に驚いて後ろを振り返った。気配が感じられなかったこの少女は何者なんだろう。ヴァリアーでも気配を読むのは得意な方だったのに。

なんて答えればいい？なによりこの少女は裏の人間か？

「私は……イタリアから来た」

「イタリアといますとマフィアと食べ物のおいしい国ですね。とミサカは思い出しながら答えます。しかしイタリアの方がなぜ学園都市に？とミサカは疑問を問いつけます」

裏というわけではなさそうだ。警戒の色も見られない。緊張した時の体の硬直も見られない。

「私は並盛という町を探しに来たんだ。それにしても学園都市とはなんだ？聞いたことがない」

とっさに考えた言葉。ボンゴレ十代目の故郷だという並盛。ボンゴレの人間ならだれでも知っている事。

この時ほどボンゴレが日本生まれなのに感謝した。

「並盛という地名は聞いたことがありませんね。とミサカが日本地図を思い出しながらいいます。学園都市をしらないとはさすが外国人ですね。とミサカは日本と外国の違いに関心をします」

うげえ　　そう思ってしまった私を誰も責めないでくれ。

「学園都市とは総人口230万人弱、東京都西部の大部分をしめる巨大大都市です。とミサカは説明を始めます。その人口の8割が学生という事から学園都市といわれています。と、ミサカは生徒の人数に驚きながらいいいます。その生徒達は超能力を発現させるための特殊なカリキュラムが組まされています。とミサカは実験を思い出しながらいいいます。能力は「無能力（レベル0）」から「超能力（レベル5）」まであります。とミサカはあるレベル5を思い出しながらいいいます」

一瞬私はこのまま笑ってもいいだろうか？と思った。これじゃあまるで「とある」の世界みたいじゃないか。

私の知っている日本にそんな都市はない。むしろ東京都には並盛がある。

そういえばミサカっていう人出てたね？20000人のミサカネットワーク。打ち止め（ラストオーダー）である200001号。

「ははっ……どういう事だよミサカちゃん」

「あなたはどこから来たのですか？」とミサカは警戒しながら問い掛けます。「(後
ミサカちゃん到来！このミサカちゃんは9000何ぼかのミサカち
ゃんにしたいと思います。」

「ていうか私の名前出てない」

「ごめんね神影ちゃん。」

次はフランと一方通行と黄泉川をだそうと思います。

ちなみに原作数カ月前って事で

神影ちゃんを上条と同じ高校に行かせたいですね。

最後に！これは一方通行のベル夢にしようと思っ……

神影ちゃんみんなに愛されてるけどね^^

『そうだ、人間界にいく』

あのとミサカはどこかへ行った。

「私は9824号です。とミサカは神影に言っておきます」

私の名前も言った。ずっとあなたと呼ばれるのは嫌だしね。

あれから私はすぐに学園都市に関してよくわかるマップとかを探して買った。

あいにくと金に困りはしなかった。財布の中すごいし、ブラックカードもプラチナカードもある。

だけど一番気になるのはこの学園都市での？私”。

生徒として登録されているのだろうか？それとも不法侵入者になっているのだろうか。

「そういえば……携帯つながるかな」

プルルル お掛けになった……

プルルル お掛けになった……

プルルル お掛けになった……

プルルル ガチャッ

やっと繋がったー！

『はいもしもしー？』

「フラン？」

『あ、もしかして神影先輩ですかー?!今何処ですー?ヴァリアー
総出で探してますよー?』

「うん……日本の学園都市って所にいる」

『学園都市ですねー……一応調べておきますー』

「分かった」

それにしても何故フランにだけ繋がったんだろう……

そういえば気を失う前にもフランの声が聞こえたような……

ズキン……！

『そうだ、人間界にいこう』

『大丈夫さ、俺は最強なんだからさ』

『アハツ、元気だね』 『そんな事してどうなったっていうわけ？』

『時の使者あ？それになれって？』 『無理』 『じゃあ、遊ぼうよ』

『君は一人じゃない』 『この世にパラレルワールドなんて何億と存在するよ』 『あの馬鹿餓鬼はまた人間界に？』 『いじめられるって案外おもしろいね』 『この世に悪魔は存在するよ』 『だって俺はなつた事があるからね』 『守護者なんてものに縛られたくない』 『じゃあ死ぬば？』

『じゃあ教えてやるよ。俺の名前は』

そこで私の意識はまた途絶えた。

きつと道端で倒れてるんだろう。

だって気を失う前に

「ちよつと！あんたどうしたじゃん？！」

て聞こえた。

て、これ黄泉川とおなじ語尾だよ……

『俺の名前は……暗影くらかげ 楓かえでだ。覚えておけ』

楓とはだれなんだろう。

『そっだ、人間界にいこう』（後書き）

一方通行出せなかった……（人・；）

神影の名前をやっと出せました！いやあよかったよかった。

少し意味不明だったかなー、言葉。

いつか番外編で書こうと思います！

『どこまでもゴーイングマイウェイな姉さんにカンパイ』

『なんで記憶をけしたのか、て聞かれてもこまるよね。俺は気まぐれな道化師だから』

……ッフ

意識が戻ってきた。

目を開けて一番に飛び込んできたのは茶色いドア。その構造からしてみてもマンションのだろう。

「ここは……」

「あ、起きたじゃん？あのとときどうしたじゃん？突然道路にぶつ倒れてさ」

目に映った自分よりとてつもなくでかい胸。うらやましいなクソ。

「お前誰だ？」

「初対面にその口調は気を付けた方がいいじゃん？まあいいけど…

…あたしは黄泉川 愛穂じゃん。『警備員』アンチスキルに所属とともにある高校の体育教師をしてるじゃん？あんたは？」

このポインな女は黄泉川というらしい。しかしこいつに口調をアレコレ言われる筋合はないな。

「私は瑛蓮 神影。イタリアから来た。しかし私の記憶の中に日本に移動した記憶はない」

「きた覚えがない……？それってどういうことじゃん？一度ちゃんと調べた方がいいと思うじゃん」

「確かにな、ということでお前が調べる。私は学園都市を探検してくる」

「はあ?!」

まだ警戒を解かした訳ではない。しかし警備員なんて職業やっているとどうじゃない？有効活用さ。

黄泉川はよく見たら美人に入る成人女性だった。まあ、あの顔の女子高生がいたら引くけども。

「使えるものは使う。弱い者は突き落とせ。強者が正義だ。うん、さすがヴァリアー」

あの美人な黄泉川もじっくり使わせていただきますよ。

ゲーロー……先輩なに録ってんですかー。え、着信？　ブチッ

「フラン？」

『はいー。先輩。日本に見つけましたよ学園都市ー。最近出来たよ
うでしてー、並盛の近くだったようですー』

「そう。で、なんで私は学園都市にいるんだ？」

『そうですねー、一種のトリップじゃないでしょうかねー。あ、今
からヴァリアー総出で先輩の所行きますー』

「え、総出って誰よ」

『ええっと……ミー、墮王子、ロン毛隊長、マーモンさんですー』

ワオ。そんなに幹部が来て大丈夫なのか？いや、任務スクイないと
無理でしょ、幻術マモ君とフランいないでどうするよ。

『ですけどー、そこ少し厳しいのでー、時間がかかりそうですー。
ということと十分と学園都市を満喫してくださいーい』

「え、ああ……分かった。ありがとう」

どこまでもフリーダムなフランに乾杯。

『どこまでもゴーイングマイウェイな姉さんにカンパニー』

また声が聞こえた気がした。

『どこまでもゴーイングマイウェイな姉さんにカンパニー』（後書き）

黄泉川 『ゴーイングマイウェイすぎるじゃん神影……』

きつと黄泉川はそう思っている……はず！

また黄泉川とフランしか出せなかった……

どうにかしたい……

というわけでまだまだ続きます；

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8527z/>

とあるマフィアと科学と魔術と神と

2012年1月2日00時50分発行